

は復古神道者が勢力を得て、明治維新の舉に乗じてこの在來の統一ある文明の破壊を試みたものである。その大失態が我が文教の府に移つて、その失態を失態と理解せずして、是れは正しさものなり、國是なりと考へて、今日尙ほ教育家などの大部分は、その觀念が是正されて居るまいかと私は考へて居る、この點に於ては非常なる大問題があると思ひます。是れが桓武天皇の御代であり、又今申す通り三教融合の聖德太子の大精神が國是となつて明かに行はれて居る時であつたならばどうでありませうか。今日の思想問題に就ては佛敎を活用せられ、佛敎をしてこの人心の指導に當らしむべき方策を種々講じになる次第であらうと思ふ、又それが當然な事である。

聖德太子でも、菅原道真卿でも、傳教、弘法は無論であります、水戸光圀卿でも、この三教を融合する思想は、佛敎をやつた側から出て來て居る。弘法大師が『三教指歸』を書いたのも、傳教大師が叡山に山王神社敎を興隆したのも、聖德太子が十七憲法を作られたのも、皆佛敎をやつた頭腦の人が、儒敎は聖人の敎として尊び、神

道は神ながらの敎として尙とんで、仁義忠孝の敎、結構せず、敬神の觀念、結構せずといふやうに、皆その所を得せしめて、さうして更に彼等の足らざる所の高き東洋の哲學、東洋の宗教、東洋の倫理の根底、非常な立派な文明をこれに加へて、而も威張りもしない、やはり神様の前には坊さんも神道の儀式に違つて居るし、又聖賢の敎に對しても是れは實際の人生を導くには大事だといつて、弘法大師なども總藝種智院を造つて儒敎の普及の爲めに努力して居るし、又永い間各地に於けるお寺では、唯だお經を敎へては居らぬ、「童子敎」などの中に儒敎の道徳を主にしたるものを、安然和尚が書いて儒敎の精神の能く分るやうにしてこれを敎へたものである、その他坊さんの説敎だからといつても唯だ佛様の有難い事ばかり言つたものではない、必ずや仁義忠孝の敎を語つてさうして津々浦々に至るまで、教育なかりし日本の國民を今日まで維持し來つたものであります。その内に何があつたかといふことは歴史の成績に炳かなる所て、津々浦々に至るまでも相當なる道徳、人格が發達をして、美談が數へきれぬ程